

JICA 教師海外研修 学習指導案・授業実践報告書

【実践者】

氏名	樋口 善幸	学校名	東京都 羽村市立武蔵野小学校
担当教科等	音楽科	対象学年 (人数)	4年 3組 (28名)
実践年月日もしくは期間 (時数)	令和3年 1月 (4時間)		

【実践概要】

1. 実践する教科・領域：音楽科		
2. 題材(活動)名：「ちいきに伝わる音楽に親しもう」		
3. 授業テーマ (タイトル) と題材目標		
<p>授業テーマ：「児童が『Think Globally Act Locally』するための カリキュラム・マネジメント&授業づくり」</p> <p>題材目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の民謡や地域に伝わる音楽の歌声や楽器の音色、旋律と曲想との関わりについて気付く。 (知識及び技能) ・音色や旋律の特徴が生み出す曲や演奏のよさなどを見いだしながら、日本の民謡を味わって聴いたり、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌ったり演奏したりするかについて思いや意図をもつ。 (思考力、判断力、表現力等) ・日本の民謡の特徴やよさを味わって聴いたり、地域に伝わる音楽を調べたりして、日本の民謡や地域に伝わる音楽への興味・関心を高める。 (学びに向かう力、人間性等) <p>関連する学習指導要領上の目標：</p> <p>A表現 (1) ア 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつこと。</p> <p>B鑑賞 (1) ア 鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴くこと。</p> <p>共通事項 (1) ア 表現及び鑑賞の指導を通して、音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考える力を身に付けること。</p>		
4. 単元の評価 規準	①知識・技能	・歌声や楽器の音色、旋律などによる日本の音楽の特徴と曲想と関わりについて気付いている。
	②思考力・判断力・ 表現力	・音色や旋律の特徴などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見いだし、日本の音楽を味わって聴いている。 ・旋律や音色の特徴などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、どのように歌ったり演奏したりするかについて思いや意図をもっている。
	③主体的に学習に取り 組む態度	・音色や旋律の特徴などによる演奏のよさなどを見いだしながら聴く学習に進んで取り組もうとしている。 ・民謡の特徴やよさを味わって聴いたり、地域に伝わる音楽を調べたりして、地域に伝わる郷土の音楽への関心を高める学習に取り組み、自己の考えや学び方を調整しようとしている。

<p>5. 題材設定の理由・題材の意義 (児童観、教材観、指導観)</p>	<p>【題材設定の理由】</p> <p>教師海外研修においては、「SDGsの本質」について、多面的な角度から学ぶことができた。2030年の未来を、「ありたい社会」に変えていくためには、未来の担い手である児童が「持続可能な社会の創り手に必要な力」を身に付けていくことが必要だと学んだ。その力を身に付けるためには、私は、子供が対象となる「ひと・もの・できごと」の本質を見極め、自分がどう関わっていくか・自分の行動をどう変えていくかを考え続けることが大切であると考えた。</p> <p>研修の中で、パラグアイのスラム街に住む子供たちに、ゴミからリサイクルした楽器を与え音楽教育を行ったという「ランドフィルハーモニック」の事例に出会った。「ランドフィルハーモニック」は、創設者のファビオ・チャベス氏が、「子供たちを変えたい」「社会を変えたい」という思いをつないで・広げて、現在も活動を継続している。</p> <p>そこで、本題材においては、地域で生まれ、人々がつないできた「地域に伝わる音楽」を取り上げることとした。「ランドフィルハーモニック」と同様に、音楽を伝え続けていくためには、地域に住む人々の思いや努力が必要であると考えた。また、集団で1つの音楽をつくり上げるうえで、地域の人々とつながりが生まれるとともに、同じ音楽を演奏してきた先人の思いとも対話することができるように考える。このような音楽の意義を児童が深く考えるようにすることで、児童が、自分と音楽・地域との関わり方について見直したり、音楽のもつ価値を捉え直したりすることをねらい、本題材を設定した。</p> <p>【題材の意義】ESDを基軸としたカリキュラム・マネジメントの実施</p> <p>本校では、今年度「主体的・対話的で深い学びの充実に向けた授業の創造～新しい教育を学ぶ『情報教育・教科教育・グローバル教育』を通して～」という主題で、校内研究を行っている。グローバル教育部においては、4年生・総合的な学習の時間「20才の私たちへのメッセージ」という単元を実施した。この単元は、「海洋問題等の環境課題に対して関心をもち、様々な視点から解決策を自分なりに見出し、友達と協力しながらより良くするために工夫すること」をねらいとした。総合的な学習の時間を基軸に、ESDレンズ(UNESCO, 2012)を働かせる場面を組み入れ、教科領域等横断的に資質・能力を育成していくことをねらい、総合的な学習の時間と音楽科とを関連付けて学習指導を行った。本題材においては、総合的な学習の時間で働かせた「つながるレンズ(統合的レンズ)」を活用し、「地域に伝わる音楽を学ぶ」ことが、どのような意味をもち、どのようにつながっていくかを考えることができるよう、計画した。このように、他教科で身に付けた資質・能力を本題材において活用し、本題材を通して身に付けた力を他教科で発揮するという、双方向型の指導を行うことができるという点に、本題材およびESDを基軸としたカリキュラム・マネジメントの意義があると考えた。</p> <p>【児童観】</p> <p>本学級においては、どの題材・領域の学習に対しても意欲的に取り組む児童が多い。授業の中では、自分の考えを自分の言葉で発言する場面や、何度も歌い方や演奏の仕方を試行錯誤して、よりよい音楽をつくろうとする場面が見られる。また、特に意欲的に学習に取り組む児童からは、気付いたことや感じたことを、音色・強弱・速度等といった「音楽のもと」の視点から分析し、根拠をもって説明しようとする姿も見られる。</p> <p>一方、羽村市に住む子供たちにとって、伝統的な音楽は生活の身近な場面にあるものではない、という実態がある。自分たちの身近にはないものを学習対象とする際、学習に対して・教師に対して素直に反応する本学級の児童は、「教師が求めているであろう」方向から自分の考えを発言したり、「正解であろう答え」を述べたりしようとすると考えられる。このような実態から、児童が本題材において主体的に課題を設定することや、自分の考えを広げたり深めたりすることが難しいことが予想される。</p> <p>【指導観】</p> <p>本題材は、児童が、日本の民謡や地域に伝わる音楽に触れ、その背景にある思いや願いを考える学習を通して、地域に伝わる音楽への興味・関心を高めるとともに、音楽を未来へ受け継いでいくこと・音楽を学び続けていくことの意味を考えることをねらいとしている。</p> <p>第1次では、パラグアイの「ランドフィルハーモニック」について学び、貧困の連鎖に苦しんでいる人々を変えたいという、設立者の音楽教師の思いを感じ取ることで、「0からなにかをつくること」「続けていくこと」の意義について、児童が自分なりの思いをもつことができるようにする。その後、一度消滅の危機に瀕しながらも、人々の想いで受け継がれ、今日では全国的に有名になった「こきりこ節」の鑑賞を行う。体験活動を組み入れた鑑賞の学習を通して、日本の楽器の音色や民謡の発声方法、五線譜によらない記譜方法等に興味・関心をもつことができるようにする。また、保存会の人々の話を聴くことで、「こきりこ節」を受け継いできた背景に触れ、地域に伝わる音楽を受け継いでいくことの大切さや難しさについて捉え直し、自分の考えを調整するようにする。</p>
---	--

第2次では、地域に伝わる音楽を、日常の一部として捉え自然に関わっている八丈島の子供たちの「八丈太鼓」の演奏を鑑賞する場面を設ける。「こきりこ節」「八丈太鼓」を比較鑑賞し、「地域に伝わる音楽を学び続けるよさは何か」という問いを入り口に、思考ツールを使って考えを可視化するようにする。よさについて「人々の思いを受け継いでいける」「いろんな人とつながることができる」「思いを一つにすることができる」「努力して、自分自身が成長できる」等と整理することで、児童が地域に伝わる音楽を受け継いでいくことの本質を捉えることができるようにする。また、これらの学びは、「地域に伝わる音楽」を通してのみ得られるものではなく、現在児童自身が関わっているコミュニティの中でも学ぶことができることに気付かせる。そこから自分たちが今できることは何か・これから何をしていきたいかを考えるようにし、「今できることから行動し、将来地球規模の課題を解決する力を身に付ける」Think Globally Act Locallyの「種を蒔く」題材とする。

6. 題材指導計画 (全4時間)

時	テーマ	学習のねらい	学習活動 ★評価【評価の観点および評価方法】	資料など
1	チャベスさんは、どのような思いで楽団をつくったのかを考えよう	日本の民謡や地域に伝わる音楽への興味・関心を高める。	<ul style="list-style-type: none"> 「Landfillharmonic」が演奏する、「アイネクライネナハトムジーク」を聴く。 パラグアイについて知り、「Landfillharmonic」の演奏および、設立者のファビオ・チャベス氏の話聴く。 チャベス氏が、なぜ、カテウラで、ゴミからできた楽器を使ったオーケストラを設立したのかを考える。 <p>★地域に伝わる郷土の音楽への関心を高める学習にすすんで取り組み、「何もないところからつくり上げること」「つくったものがゼロになってしまうこと」について、自分なりの考えをもととしていく。【主 発言】</p>	<ul style="list-style-type: none"> Landfillharmonicの演奏DVD 絵本「スラムにひびくバイオリン」 パラグアイ イグアス移住地の生活(スライド)
2	音色や音の重なりに注目して、こきりこ節を聴こう	「こきりこ節」を鑑賞したり体験したりする活動を通して、音色や旋律の特徴が生み出す曲や演奏のよさなどを見いだしながら、日本の郷土の音楽を味わって聴く。	<ul style="list-style-type: none"> 「こきりこ節」の鑑賞用CDの模範演奏を聴き、主な旋律に親しむ。 範唱を聴き、歌い方の特徴を感じ取るとともに、五線譜によらない記譜方法に親しむ。 主な旋律の歌い方に親しみ、伴奏に合わせて歌う。 体験学習を通して、「こきりこ節」に使われている楽器「棒ざさら」「こきりこ」に関心をもつ。 「越中五箇山こきりこ唄保存会」の話聴く。 <p>★歌声や楽器の音色、旋律などによる日本の音楽の特徴と曲想との関わりについて気付いている。</p> <p>【技 発言・体験の様子】</p> <p>★音色や旋律の特徴などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見だし、日本の民謡を味わって聴いている。</p> <p>【思 発言、ワークシート】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「こきりこ節」演奏の様子(動画) 棒ざさら・びんざさら(実物楽器) 「越中五箇山こきりこ唄保存会」の話(動画)
3 本時	八丈太鼓を聴いて、「地域に伝わる音楽を学び続けるよさ」を考えよう	「八丈太鼓」の演奏や、演奏者の話を聴いたり、友達と話し合ったりする活動を通して、地域に伝わる音楽を学び、続けていくことのよさを自分なりに考える。	<ul style="list-style-type: none"> 「八丈太鼓」の演奏を聴いたり、「月曜会」に所属する小学生が太鼓を打つ映像を見たりする。 郷土につたわる音楽を学び、続けていくことのよさを考え、友達と話し合う。 <p>★民謡の特徴やよさを味わって聴いたり、地域に伝わる音楽をつないでいる人々の話を聴いたりし、地域に伝わる郷土の音楽への関心を高める学習に取り組み、自己の考えや学び方を調整しようとしている。【主 発言】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 郷土に伝わる音楽が生活とともにあり、幼少の頃から親しんできた八丈島の子供たちの演奏(動画)

4	学習を振り返り、音楽を通して身に付ける力や、その価値を考えよう	地域に伝わる音楽を学び、続けていくことにどのような意味があるのかを話し合い、今の自分たちにできることは何かを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域に伝わる音楽を学び、続けていくことのよさ」について、グループで話し合う。 ・Xチャートやベン図を用いて、「地域に伝わる音楽を学び、続けていくことのよさ」について、「伝統をつなぐ」視点、「地域の人と関わる」視点、「自分自身の成長となる」視点等に分類できることに気付く。 ・まとめた図をもとに、今の自分たちにできること・したいことは何か考える。 ・歌詞の意味を味わって「校歌」・「国歌（君が代）」を歌う。 ★歌詞と音色や旋律との関わりに興味・関心をもち、歌唱する学習に進んで取り組もうとしている。 <p style="text-align: center;">【主 発言、ワークシート】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・思考ツール ・パラグアイ・アルパ奏者の演奏（伝統楽器を使った、流行曲の演奏）
---	---------------------------------	--	---	--

7. 本時の展開（全4時間中の3時間目）			
本時のねらい：「八丈太鼓」の演奏や、演奏者の話を聴いたり、友達と話し合ったりする活動を通して、地域に伝わる音楽を学び、続けていくことのよさを自分なりに考える。【主体的に学習に取り組む態度】			
過程・時間	○学習内容 ・学習活動 T 発問 C 予想される児童の反応	◆留意点	資料（教材）
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">導入</div> 5分	<p>・前時の、「越中五箇山こきりこ唄保存会」の人の話をもとに、五箇山の人々が、どのような思いで「こきりこ節」をつないできたのか、話し合いで出た意見を振り返る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【都会からお家に来て、「こきりこ」を踊っている人の話】 「住むなら踊る、それが当たり前なんです。踊りは楽しいですよ。全国でここにしかない踊りを踊れるって、誇らしいです。」</p> <p>【ふだんは都会にいて、お祭りのときに帰ってくる人の話】 「古いスタイルの踊りや、即興でつくったという唄。古典的で素朴で、「ほんもの」っていうのがみりよくです。」</p> </div> <p>C: 「こきりこ」は、楽しいけど難しい。私は体験でうまくできなくて、くやしくて、だからやりたいと思った。昔の人も同じ気持ちだったのではないかと思う。 C: なくなると、もう1から作れないから、つなごうとしたのだと思う。 T: みなさんが、もし五箇山に生まれていたら、「こきりこ節」について、どう感じていたでしょうか。 C: 大人と一緒に祭りとかでやるのは、楽しそう。 C: でも、練習が大変そうだ。やらなきゃいけないから。</p>	<p>◆留意点</p> <p>◆前時の児童の意見を、まとめて板書しておき、学習の振り返りをする事ができるようにする。</p>	<p>資料（教材）</p> <p>「越中五箇山こきりこ唄保存会」の人の話（教育芸術社・4年授業参考資料DVD）</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">展開</div> 20分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0; text-align: center;"> <p>【学習問題】 私たちが、ちいきにつたわる音楽を学び、続けていくよさって？</p> </div> <p>○「八丈太鼓」の鑑賞・体験および、演奏者の話を聴くことで、五箇山や八丈島の人たちは、どのような思いで地域に伝わる音楽を学んでいるのかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「八丈太鼓」の演奏を聴き、気付いたことを話し合う。 C: 2人で太鼓を打っている。 	<p>◆「リズム」「強弱」「音の重なり」等、これまでの題材で学んだ視点から考えるよう</p>	

<p>まとめ 20分</p>	<p>C: 拍にのって、同じリズムを反復している。 C: 力強い演奏。 C: なんだか踊っているような気分になる。 C: 聴いていると、うれしい気分になる。 ・前時に引き続き、長胴太鼓を使って、「八丈太鼓」を体験したり、友達の演奏を聴いたりする。</p> <p>・前時・本時で行った「八丈太鼓」の体験を振り返り、気付いたことや感じたことを話し合う。 C: 「自由に打つ」って難しいけど、楽しい。 C: 先生と合わせるのが、難しかった。 C: もっとやってみたい。</p> <p>・再度、映像付きで、「八丈太鼓月曜会」の演奏を映像付きで聴く。 C: 自分たちの打ち方と全然ちがって、びっくりした。 C: 小学生が堂々と打っていて、すごい。 C: さっき「かっこいい」と思って聴いた演奏が、同じ年の子がやったものだったなんて、びっくり。 ・「八丈太鼓月曜会」に所属する児童の話聴き、地域に伝わる音楽を学ぶこと・つなげていくことによさについて考える</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「おばあちゃんが、八丈太鼓をやっていて、それで（太鼓を）始めました。」 「相手と同じ速さで、同じリズムはなるべく使わないようにしています。」 「例会で、下拍子も上拍子も、かっこよくできるようにしたいです。」</p> </div> <p>○「こきりこ」「八丈太鼓」の鑑賞や体験を通し、自分たちが地域に伝わる音楽を学び、続けていくことに、どんなよさがあるのかを考える。</p> <p>・個人で自分の考えをまとめ、付箋に記入する。 C: 地域の人々の伝統を受け継いでいくことができる。 C: みんなで同じ音楽を演奏できると、楽しい。 C: 協力することを学べる。 C: 昔の人々や、地域の人々の思いや願いも、歌にのせて伝えていくことができる。 C: なくならない、ということも、良さだと思う。 C: できなくて、くやしい。努力をして、成長できるかもしれない。 C: 大人から子供へと音楽を教える中で、地域の大人の人と仲良くなれるかもしれない。 C: 自分たちの音楽を、受け継ぐだけでなく、広めていける。 C: 教わった側も、教えた側も嬉しくなる。 C: 誰でも参加できるってことは、SDGsの5番や10番につながりそうだ。 C: 続けていくってことで、つくる責任・使う責任にもつながるかもしれない。</p>	<p>に促すことで、児童が音楽を形作っている要素とその効果について考えることができるようにする。</p> <p>◆教師は、「下拍子」を担い、児童は即興的に「上拍子」を打つようにする。</p> <p>◆総合的な学習の時間で交流する、八丈町立三根小の児童が打っている演奏を聴くことで、児童が「八丈太鼓」をより身近に感じることができるようになる。</p> <p>◆次時でチャート上にまとめることができるように、付箋に記入するよう指示する。</p>	<p>「八丈太鼓」を、同じ年の児童が演奏する映像</p> <p>チャート例示 ベン図 Yチャート Xチャート</p>
--------------------	---	--	--

	<p>○郷土につたわる音楽を学び、続けていくことに、どのような良さがあるのか、自分たちの考えをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで、短冊に書いた内容を交流する。次時で、グループごとにXチャートにまとめて、発表会をすることを知る。 	<p>◆モデリングすることで、チャートを使って自分たちの考えを仲間分けすることについて、見通しをもつことができるようにする。</p>	<p>SDGs シール</p>
<p>8. 評価規準に基づく本時の評価方法 民謡の特徴やよさを味わって聴いたり、地域に伝わる音楽をつないでいる人々の話を聴いたりする活動を通して、友達や資料との対話を通して、自己の考えを調整しようとしている。【主 発言】</p>			
<p>9. 学習方法及び外部との連携</p> <p>【学習方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の思考を可視化し、分類したり、関連を見える化するために、思考ツールを活用した。今回は、ベン図、Yチャート、Xチャートの3種類を示した。ベン図を使うことで、児童が、「よさ」どうしの関連を考えることができる考えた。また、XチャートやYチャートを使うことで、児童が、「よさ」を分類することができる考えた。どのチャートを選択しても、分類したり関連を考えたりする必要があり、必然的にグループにおいて児童が意見を交流するようにした。 <p>【外部との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師海外研修参加者の、八丈町立三根小学校音楽専科の大平教諭と連携し、「八丈太鼓月曜会」に所属している小学生が、八丈太鼓を打つ動画を撮影し、鑑賞教材として用いた。また、澤野教諭と連携し、埼玉県在住のパラグアイ・アルパ奏者が日本の流行曲を演奏する様子の動画を入手し、まとめの場面で用いた。 ・地域に縁のあるパラグアイ在住の方から、パラグアイの生活や人々の考え方についての情報を得た。 			
<p>10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校外においてESDに関する研修を受け、OJTでプレゼンテーションを行う等し、校内に還元した。また、校内研究を推進し、4年生・総合的な学習の時間の研究授業を軸に、校内の教員がESDに関する実践を積むことができるよう支援した。 ・音楽室前に「10年後の私たちへ」コーナーを設置し、JICAの資料や絵本「スラムにひびくバイオリン（汐文社、スーザン・フッド 作）」「地球温暖化、沈みゆく楽園 ツバル（小学館、山本敏晴 著）」を読むことができるようにしたり、パラグアイおよび「Landfillharmonic」についての資料を展示したりした。 			

【自己評価】

<p>11. 苦勞した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽科のねらいを達成させる過程で、ESDを組み入れる必要があった点 音楽科のねらいを達成するために、鑑賞の活動を中心に行った。話し合い活動が膨らむにつれ、音楽科の授業とのずれが生じるのではないかと懸念し、指導方法を工夫した。 ・教科横断的に指導を行う上で、担任との共通理解を図る点 ESDの本質を達成させるためには、教科領域等横断的な指導が必要で、専科教員としては担任との連携が必要である。今回は4年生の担任との協議を密に行った。
<p>12. 改善点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業のためのカリキュラム・マネジメントではなく、学校全体で効果的にESDを実施していく視点から、ESDカレンダーを作成するようしていく。 ・ESDの本質を見極め、教科のねらいの達成との両軸に立った指導計画を作成していく。
<p>13. 成果が出た点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞時に、実物楽器を使った体験活動を組み入れた結果、児童が主体的に地域に伝わる音楽に関わる姿が見られた。 ・総合的な学習の時間で学んだことや、働かせた見方（ESDレンズ）を活用することができるよう、カリキュラム・マネジメントを行った結果、児童のSDGsとの関連を意識した発言をする姿が見られた。

14. 学びの軌跡 (児童の反応、感想文、作文、ノートなど)

① 本題材 2~4 時に記入するようにしたワークシート記述より

私たちが、ちいきにつたわる音楽を学び、続けていくことに、どんなよさがあるのだろうか。

続けていくことでおもしろい音楽になり大人でも子どもでもいっしょにやると仲良くSDGの17番につながりおもしろいから大人子どもにも人気になって続けたいと思います。

私たちが、ちいきにつたわる音楽を学び、続けていくことに、どんなよさがあるのだろうか。

昔からあったおどりは、それぞれちがっていて、全国に1つの大切な大切なおどりだし、受けつがれている命のように、昔からその地いきにあるおどりで、みんなの心がつながると思います。

私たちが、ちいきにつたわる音楽を学び、続けていくことに、どんなよさがあるのだろうか。

私たちが大人になっても、ずっと受けつがれると思うから音から伝わる伝統になる。だから音楽の楽しさも分り音の人のねがいなどが伝わる。

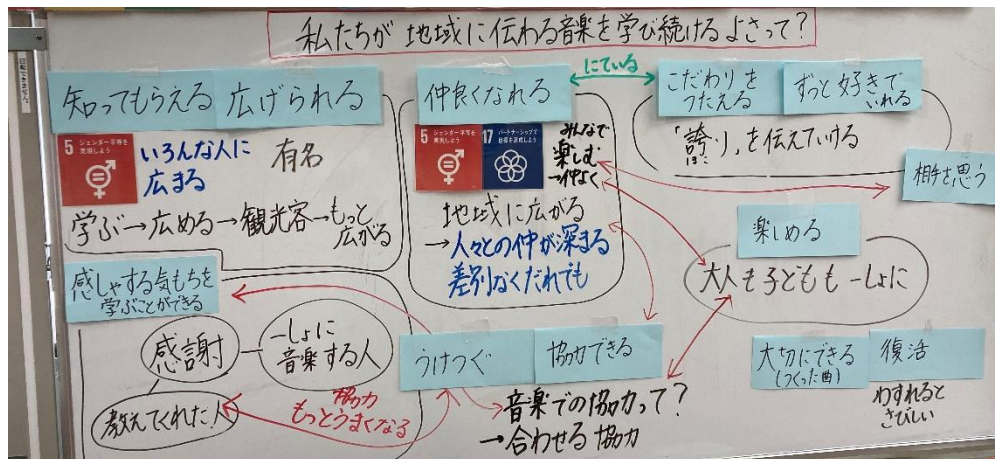
私たちが、ちいきにつたわる音楽を学び、続けていくことに、どんなよさがあるのだろうか。

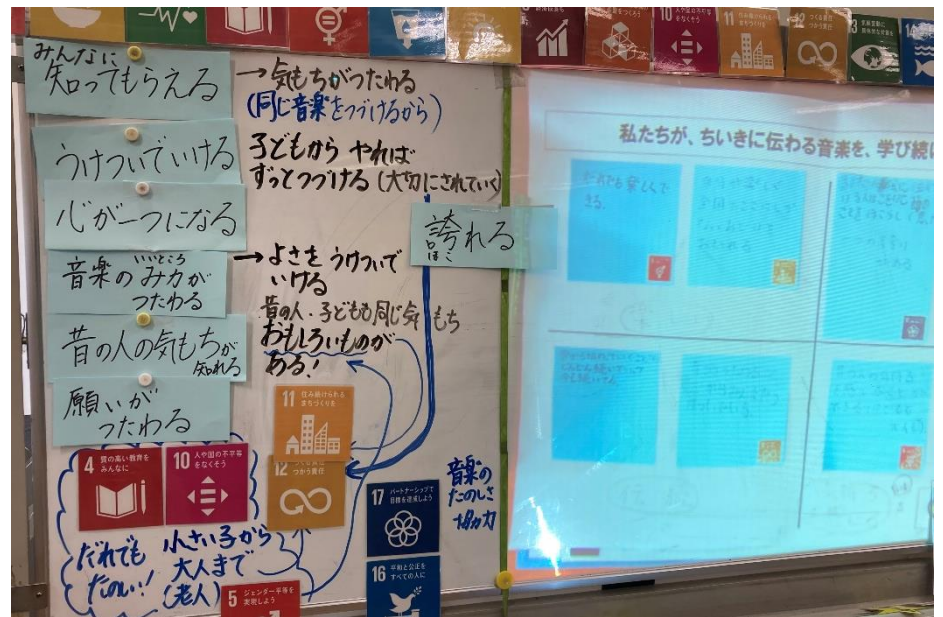
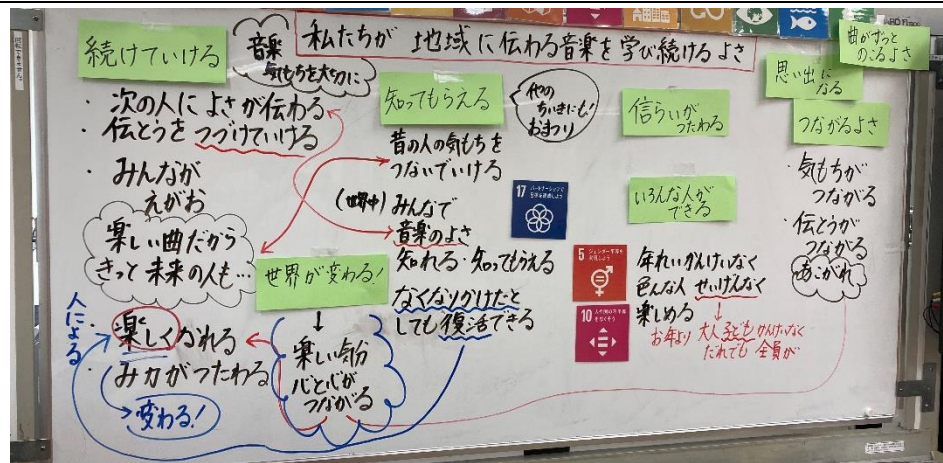
昔のおどりをおどる日をま、年々つづけることで作った人のねがいがつたわって昔の人がよろこぶかなと思ふ、つづけている 相手のことをしかりみてやることで協力とかがみにつく。

私たちが、ちいきにつたわる音楽を学び、続けていくことに、どんなよさがあるのだろうか。

昔の人がいっしょけんめい作ってくれたから、これを子どもたちに伝えれば子どもも音楽の楽しさが分かる。自分に教えてくれた人もよろこぶし他の人たちに広まるかもしれないから。

② 第4時 板書 (※一部抜粋)





15. 授業者による自由記述

私は最初、学習指導要領の基盤でもある「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」の育成について、音楽専科として、教科との親和性の観点からかなり難しくとらえていた。ましてや社会や環境の課題である SDGs について、音楽科とどのように結び付くのか、考えることができないでおり、その答えを探すために本研修に参加した。

実践の中で、児童が、民謡や郷土芸能といった、なじみのないものに対して本気で向き合い、思考と思考とを結び付けて考える姿が見られた。さらには、「音楽を学び続けること」と SDGs の目標との関連について自分の考えを話す児童も複数見られた。この姿は、自分が普段通りの題材指導を行っていたら見られなかったものであろう、と感じた。

この経験から、児童がレンズを働かせながら、課題を「自分事」として捉えることが、教科における主体的・対話的で深い学びの出発点となるのではないかと、ということに気付いた。そして、音楽専科教員だから自分のテリトリーの中での ESD の実践は難しい、という考えから、ESD の実践をすることが、教科の学びを豊かにするという考えに変わっていった。本研修に参加した最大の成果は、このように自分自身の「音楽専科」という立場に対しての見方の変容・捉え直しをすることができた、という点である。

今後も、日々の音楽科指導の中で ESD の実践を意識することができるよう、授業改善を図るとともに、学んだことを発信し、職場全体で ESD を推進することができるよう、尽力していく。

【参考文献】

- ・「身近な課題の解決に挑む 未来の授業 私たちのSDGs 探究BOOK」(宣伝会議)
監修：佐藤真久 編集協力：認定NPO 法人ETIC
- ・「スラムにひびくバイオリン」(汐文社) スーザン・フッド 作
- ・「地球温暖化、沈みゆく楽園 ツバル」(小学館) 山本敏晴 著

【参考 Web サイト】

- ・富山県西部観光社 「水と匠」 mizutotakumi.jp